

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第23号
2021年12月13日
編集・文 吉成正士

3年生学年全体人権学習(12月1日) 第4部

自分の今までしてきたことをふり返ってみると

■今回の人権学習で、とても良い経験になったと思いました。自分の今までしてきたことをふり返ってみると、ダメなところがたくさん出てきました。それは言い訳を言っていることです。勉強やスポーツのことでうまくできなかったとき、これは難しかったからや、足が痛かったからや、親のせいにしていました。でも今日話を聞いて、そんなことをしていいのかと思いました。

発表しようと思っていた3番のやつをここに書きます。人権学習とは、誰も不幸にさせないためにしているのだと思います。差別している人、していない人、それを受けている人、それを経験したことがある人、みんなが楽しく幸せになるためにしていることだと思います。この経験を生かして、残りの中学校生活を、今もとてもいい子だけど、もっといい子に過ごしていきたいです。 2組YK

何かのせいにするのは簡単です。よく人は、何か都合の悪いことがあると、誰かのせいに、何かのせいにしがちです。そうすれば言い訳ができて楽だから。でも、それは一時的な「逃げ」であることも、本当は自覚しているのではないかと思います。逃げていいる限り、いつまでも追ってきます。どこまでも追ってきます。逃れることはできません。でも覚悟を決めて真正面から向き合えば、景色はガラリと変わってしまいます。「さあ来い！来るなら来い！」と思えてしまえば、何もかもが一変します。他人を変えることはできません。人が変わるのには、自分が変わろうと思えて初めて変われるのです。つまり大切なのは、「自分」です。そのことに気づけば、あとは行動に移すかどうかです。それが、「いい子」への秘訣です。残り3ヶ月、頑張ってみましょう。まず今日というこの一日、全力を尽くしたかです。



今までの学びを盾にして立ち向かう

■今日、学年で最後の人権学習がありました。僕は今まで、部落差別とは遠い存在だから、そんなに人権学習を

して意味があるのかと思っていました。僕は今日、たくさんの人の意見を聞きました。その時、やはり僕と同じような考えをしている人の発表を聞きました。僕もそうだなと思うところが何個もありました。僕は、心の内で何回も発表をしようと思っていました。しかし発表することができませんでした。その時、吉成先生や他の先生たちから、その時できなくて後悔したという体験を聞きました。僕は、今、変なことやありもしないことを言っている人を注意するほど勇気がありません。吉成先生が、社会に出てきたとき、初めて分かったりすることがあると言っていました。もしそれが今までに習っていた人権学習に反するのであれば、今までのことを盾にして立ち向かっていこうと思いました。 6組TK

先生方の話に胸が震えました。みなさんも、話が聞けても担任の先生だけだったのではないのでしょうか。でも、こうやっていろんな先生方の中にある様々な思いにふれることで、人権学習に対する本気度が飲み込めたのではないかと思います。もしかすると、もっと早く、そんな話をみなさんに聞いてもらえば良かったのかもしれない。でも、コロナ禍のなか、そういうわけにもいかず、せめてもの思いでこの日になってしまいました。仕方がありません。仕方ありませんが、先生方の胸に秘めた大切な思いを、しっかり受けとめ、これから始まる新しいステージに生かしていったほしいと思います。

みんなが差別しないことを知っているから言える

■先生方が自分の過去をみんなに打ち明けていてすごいなと思いました。それは、みんなが差別をしないことを知っているから言えたんだと僕は思いました。いろんな先生が話していたけど、みんな僕も、過去のことで反省していることはあるんじゃないかと思います。僕はたくさんあると思います。けど、中学校に入って自分勝手なところもなくなったと思うし、人のことを思って行動する方が多くなったと思います。他人のことを言うより、まず自分のことから考えた方がいいと思いました。僕も、口や書くことだったら何でもできるけど、行動に移すまでが難しいです。

結婚差別、就職差別などの学習をしてきて、もし自分が結婚差別、就職差別に出会ったときに、自分は注意をしたり、差別をされている人の味方になってあげられたらいいと思いました。人権学習は、自分のためにしていると思います。自分で学習して、他人と意見を共有し合うことが必要だと思います。自分のことだけではなく、他人のことを知り、その困っていたり、悩んでいる人を助けてあげられる方法などを考えることができると思ったから、他人のこと、自分のことを共有しあうのがいいと思いました。 3組TH

先生からのお説教が無駄なことだとは思いません。でもそれ以上に、先生方がみなさんと同じ目線で自らを語ることは意義深いことだと思います。この学習は

それを可能にしてくれます。年齢や立場の違いを越え、理解し合い、認め合える要素があるからです。お説教には反発しても、共に歩もうとする思いを感じたとき、人は素直になれるのだと思います。そして、自ら変わろうと思えるのだと思います。

「人を知る」ということは、「自分を知る」ということ。人を知ることを通して、鏡写しのように自分の内面を見つめ、自分という人間を知っていくのです。先生方の話は、みなさん自身を見つめるきっかけになったのではないのでしょうか。

約2年間、人権学習をして良かった

■最初は人権学習なんかしなかったら差別とかが起らないと思いましたが、今は人権学習をしていて良かったと思えました。人権学習の授業を受けて学んだことがいっぱいありました。特に部落差別のことを知りました。部落差別は何を理由に差別をしているのかがまったく分かりません。いい大人が差別して、子どもに悪影響だと思いました。子どもに差別を教えてしまうから差別は起きてしまうし、子どもが大人になって子どもができて、その子どもに差別を教えたりするから差別は終わらないと思えました。これからは人権学習がなくなるから、自分でたまに人権学習をしたいと思えます。本当に約2年間、人権学習をして良かったと思えました。

4組

「約2年間」ということは、1年生の時に学び合ったクラスの仲間や先生の声が自分の中で生きてるということです。2年生の時の仲間や先生の声も自分の中で生きてるということです。その時のクラスのみんなや担任の先生とのやりとりが、今の自分をつくっているということです。そう思えるように成長したあなたのことを誇りに思うし、嬉しい気持ちでいっぱいです。今の3年生だけがすべてではありません。1年生や2年生の自分あってこそ、今です。その時の仲間や先生のことも、同じくらい大切に想ってください。



自分の意見をしっかり持ち入試に向けて努力

■最後の全体学習を通して、いろんな人の意見を聞くことができて良かったなと思えました。私は今まで差別の学習をしてきたけれど、どれも自分にはあまり関係のないように思っていたけれど、弘瀬さんの実際にあったお話を聞いたり、人の意見を聞くにつれ、身近に差別はあるんだと実感させられました。人権学習はたくさん学んで来られたけれど、今度は人に教えることも大切なのではと考えました。差別している人がいれば、「それはちがう」と言え

るようになりたいと思いました。「ちがう」と発言するのはすごく勇気の要ることだと思うけれど、その人のためになるなら正しいことを知っている私たちが、間違っている人に教えていかなければならないなと思いました。

人権学習は、自分のためにもなるし、人のためにもなると思います。高校生になってもきっとこういう学習は続いていくのだと思うし、その時にいろんな発言もあるので、しっかり自分の知識にしていけたらなと思います。全体学習や道德の時間は発言することはなかったです。ですが、自分の視野を広げるためにももっと発言することも大切なので、発言の方も頑張っていきたいなと思います。あと4ヶ月で中学校を卒業するので、自分の意見をしっかり持ち、入試に向けて努力していきたいです。

5組MR

もしかすると、「ちがう」と言うよりも、「へー、そういう考えもあるんだ。自分はね〜」と言った方がいいかもしれません。「ちがう」は、相手を否定する言葉であって、それぞれの個性を認めるというなら、それは少し違うようにも思うからです。だから、とりあえずは肯定も否定もせず、「自分はね〜」と、自分の考えも聞いてもらうというのがいいのかもしれない。でも、なかには「それはちがう」と言いたくなることもあります。例えば、人を否定したり、排除するような発言を聞いたとき。「それはちがう」と言っていいたいように思います。でも同時に、「なんで？」と訊くことも大切です。「なんでそう思うの？」と。もしかすると、そう言わせる何か重要な背景があるのかもしれないから。つまり、やはり対話をするということです。

◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆

バンブオブチキンというグループに「ファイター」という曲があります。「3月のライオン」という漫画を原作にしたアニメの主題歌です。孤独さを抱えた主人公の高校生棋士が、様々な困難に立ち向かいながら成長していく物語です。その姿に合わせるように、歌詞の中に素敵な言葉が散りばめられています。

その声は流れ星のように
次々に耳に飛び込んで光って
魚のように集まりだして
冷たかった胸に陽だまりが出来た

まるで、みなさんがしてきた人権学習の場面のようにです。

2016年4月、熊本地震の一週間後、私はボランティアに現地入りしました。その間中ずっと、車の中で何度も何度も聴いては、高ぶる感情を抑えることができませんでした。悲しみや悔しさ、いらだちや不安を抱えながら、それでも前を向いて生きていこうとする被災者の思いが胸にどっと流れ込んできたからです。それは被災者でなくても、いじめや差別、様々な困難に立ち向かおうとしてる人に共通の思いでないかと思います。受験を控えた、今のみなさんとも。

みなさんの胸の中には、それぞれに「小さな鞆」があります。中身はまだ詰まっていません。でもその中に一つだけ、「みんなと学び合った人権学習」を入れておいてください。そしてこれから鞆の中に、大切な物をたくさん詰め込んでいってください。

残されたみんなとの時間、一日一日、一瞬一瞬を、大切にしよう。一年間、ありがとうございました。